令和８年度　第１回　川西市環境審議会部会　次第
（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会）

日時：令和８年７月８日(水)　１４：００～
場所：川西市役所　４階　庁議室

１．委員委嘱

２．部会長選出、あいさつ

３．委員紹介

４．議事
生物多様性ふるさと川西戦略進捗状況調査（令和７年度）について
【資料１】【資料２】

５．その他
（１）出在家町（川西北小学校横）キセラ川西市街地水路水生生物群保存のための啓発について　【資料３】
（２）川西市における特定外来生物の確認状況について
【資料４】

６．市民環境部長　あいさつ

【配付資料】
① 令和８年度　第１回　川西市環境審議会部会（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会）　次第
② 令和８年度　第１回　川西市環境審議会部会（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会）委員名簿
③ 令和８年度　第１回　川西市環境審議会部会（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会）座席表
④ 【資料１】生物多様性ふるさと川西戦略評価指標（令和７年度）
⑤ 【資料２】生物多様性ふるさと川西戦略進捗状況調査（令和７年度）
⑥ 【資料３】出在家町（川西北小学校横）キセラ川西市街地水路水生生物群保存のための啓発について
⑦ 【資料４】川西市における特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の確認状況について

令和8年度第１回川西市環境審議会部会（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会）委員名簿

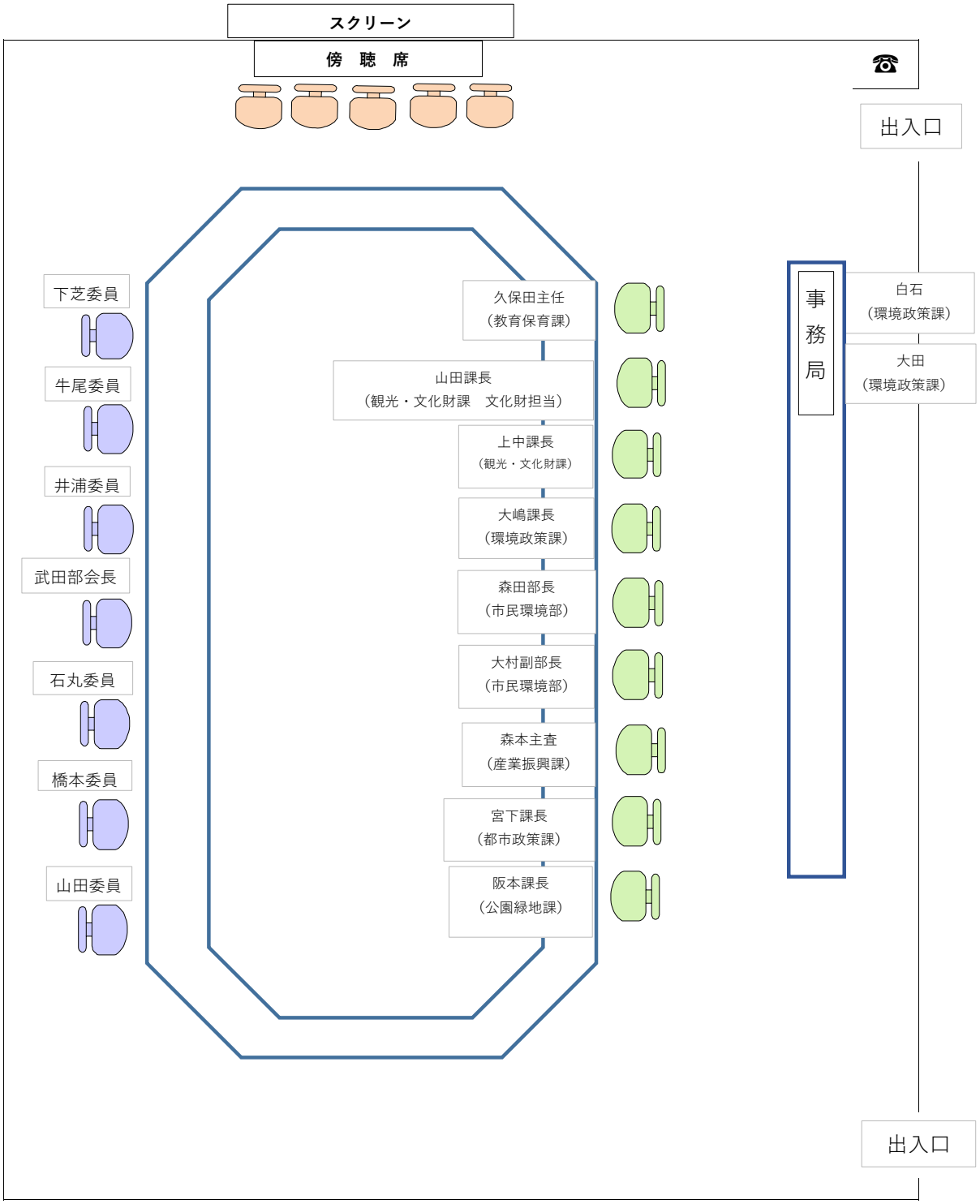
委嘱期間令和8年7月1日～令和10年3月31日

No.		氏名	役職	選出区分
1	審議会委員	武田　義明	神戸大学 人間発達環境学研究科名誉教授	環境審議会委員
2	専門委員	井浦　澄夫	大和フォレストクラブ会長	市民又は 関係団体の代表者
3	専門委員	石丸　京子	兵庫県立尼崎の森中央緑地パークセンター 生物多様性アドバイザー	学識経験者
4	専門委員	牛尾　巧	環境省環境カウンセラー	市民又は 関係団体の代表者
5	専門委員	下芝　勇登	流域ネット猪名川代表	市民又は 関係団体の代表者
6	専門委員	橋本　佳延	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部主任研究員	学識経験者
7	専門委員	山田　量崇	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所教授	学識経験者

令和８年度　第１回　川西市環境審議会部会
（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会）座席表

令和8年7月8日（水）14時～

庁　議　室



【資料1】

生物多様性ふるさと川西戦略評価指標（令和7年度）

No.	基本戦略	評価指標		担当課	目標値	R3年度（2021年度）	R5年度（2023年度）	R6年度（2024年度）	R7年度（2025年度）	R8年度（2026年度）	R9年度（2027年度）	備考	参考（令和7年第2回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会（R8.1.13）での委員からの意見等）
1．環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成及び生物多様性教育													
1	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数（人）	保育所	教育保育課	市立保育所の全園児・保育士	－	440（対象者全員）	366（対象者全員）	421（対象者全員）				
2	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数（人）	幼稚園	教育保育課	市立幼稚園の全園児・教諭	－	761（対象者全員）	634（対象者全員）	626（対象者全員）				
3	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数（人）	小学校	教育保育課	市立小学校の全3年・4年・5年生	3904（対象者全員）	3,531（対象者全員）	3,648（対象者全員）	3581（対象者全員）				
4	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数（人）	中学校	教育保育課	市立学校の全中学2年生	1243（対象者全員）	1,206（対象者全員）	1,243（対象者全員）	1,229（対象者全員）				
5	◆教職員や市民を対象とした研修の実施	研修を受けた年間の教職員数（人）		教育保育課	市立小学校の全3年・4年・5年教員	45	19	24	21				
6	◆教職員や市民を対象とした研修の実施	環境に関する公民館講座を受けた人数（人）		川西公民館		－	78	111	76				
2．自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発													
7	◆広報や市HPによる情報発信	1年間の各HPへのアクセス数（件）		環境政策課	増やす	7,289	8,767	8,264	7,388				
8	◆広報や市HPによる情報発信	1年間に紹介した自然環境の数（件）		環境政策課	増やす	4	5	5	5				
9	◆本市によるモデル整備や景観計画による情報発信	指標「景観に関心のある市民の割合」（%）（市民実感調査）		都市政策課	85.0	－	82.6	76.9	73.2				

【資料1】

生物多様性ふるさと川西戦略評価指標（令和7年度）

No.	基本戦略	評価指標		担当課	目標値	R3年度（2021年度）	R5年度（2023年度）	R6年度（2024年度）	R7年度（2025年度）	R8年度（2026年度）	R9年度（2027年度）	備考	参考（令和7年第2回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会（R8.1.13）での委員からの意見等）
3. 生物多様性保全の取組みの強化													
10	◆市民生活での生物多様性保全の活動の支援	2032年に実施予定のアンケート調査結果		環境政策課	―							2032年に実施予定	
11	◆本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	指定・登録文化財（天然記念物）の件数（件）		観光･文化財課	―	―	13	14	14				
12	◆本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	緑地における維持管理団体数（団体）		公園緑地課		―	3	3	3				
13	◆本市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施	1年間に捕獲した有害鳥獣及び 外来動物の数（頭）		産業振興課	254	193	213	286	216				
4. 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大													
14	◆市民、団体、企業などとの連携の構築	1年間の情報交換などの実施回数（回）		環境政策課		1	1	1	1			R7.7に環境フェスタを実施	
15	◆市民、団体、企業などとの連携の構築	1 年間に支援したボランティア数		産業振興課	250	267	153	146	165				
16	◆兵庫県や市民団体との既存事業の継続	1年間に実施した河川美化活動の回数（回）		美化推進課		12	8	10	10				

生物多様性ふるさと川西戦略　進捗状況調査（令和7年度）

自己評価の評価方法
A　目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
B　目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
C　実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
D　実施していない。実施内容等を再検討する必要がある。

No.	基本戦略	施策No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	令和7年度自己評価	令和７年度の実施状況（2025年度）	令和７年度成果と課題	今後の方向性	備考	参考（令和7年第2回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会（R8.1.13）での委員からの意見等）
1．環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成及び生物多様性教育												
1	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	①	就学前園児の環境教育方針	国の定める3法令や市規定の全体的な計画などに基づいて、各園所で計画を立てて、園所内の自然環境を生かした取組みや県や市の企画に参加したりして環境保育に努めていきます。 ※国の定める3法令：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領	教育推進部	教育保育課	A	・園所内の自然を生かして植物や生き物に触れたり、散歩や園外保育の際に地域の身近な自然に触れる機会を意図的にもったりして、子どもの興味、関心を深めてきた。 ・栽培活動を通して、世話をしたり収穫したりする喜びを味わってきた。	園所内の自然だけではなく、散歩や園外保育等を通して、自然や生き物と触れあう機会をもつことができた。見つけたものや気がついたことについて調べたり、自然物を使って遊びを楽しんだりするなど、子どもたちは自然に興味をもち、自分からかかわろうとする姿が見られた。今後も機会を捉えて自然に触れるようにしていくことが、大切である。	年間通して自然に触れる体験ができるよう計画し、教育・保育活動を実施していく。また、保育の中で自然物を取り入れて楽しめるような環境構成について考えていく。		
2	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	②	小学校体験活動（環境体験）	小学校3年生を対象とした「環境体験」を実施し、児童が普段生活している地域の自然の中に出かけて環境体験をします。また、本市独自の自然や産物を知り、それらを広めていくことで、環境問題を考え解決していく素地を育んでいきます。	教育推進部	教育保育課	A	市内16小学校で校区内の地域の畑や河川、公園、猪名川流域等に赴き、植物や動物等に触れた。	園所内の自然については各園所違いがあるので、栽培物など計画的に自然に触れる機会を今後もつくっていくことが必要である。	地域参画を目指し、SDGsの視点を取り入れ、各小学校の独自性を活かした小学生が主体的に環境教育に取り組むことができる環境体験プログラムを構築していく。 また、3年生の環境体験、4年生の里山体験、5年生の自然学校と系統性をもったカリキュラム（内容やプログラム）の設定を各校へ促していく。		
3	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	③	里山体験学習	小学校4年生を対象に「里山体験学習」を実施し、日本一の里山である黒川地域を体験活動の場として、自然に対する畏敬の念をはじめ、生命のつながり・環境保護の大切さを実感し、美しさに感動する豊かな心を育んでいきます。本市の自然特性を活かした、独自の環境教育です。	教育推進部	教育保育課	A	市内16小学校で2回以上実施した。黒川地区に赴き、植物や動物等に触れた。 また、黒川地域の方々に触れ、里山と共に人間がどのように生活してきたかを学習した。 社会教育団体の方々と共に、里山資源を使い、木工クラフト等を作成した。	小学校4年生が黒川の方々や社会教育団体の方々の協力を得て、川西の特産品をはじめ、環境問題や生活の知恵等、幅広く学習をすることができた。 里山と人間がどのように関わってきたかを学習し、SDGsについて理解を深めることができた。 黒川地区のサポーターの方々が、年々減少しているが、広域に募集を行い、増員することができた。 既存の活動だけでなく、柔軟に会場や内容を工夫することができた。	黒川地区のサポーターの数を増員し、少人数による体験学習を実現できるようにする。 サポーターの方々の資質向上を目的とした実地研修や、活動内容をより良くしていくための打ち合わせを増やしていく。		
4	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	④	小学校体験活動（自然学校）	小学校5年生を対象に「自然学校」を実施し、児童が兵庫県にゆかりのある人や自然、地域社会と触れ合い、理解を深めるなど、長期宿泊体験を通して、自分で考え、主体的に判断し、行動し、より良く問題を解決する力や、生命に対する畏敬の念、感動する心、共に生きる心を育むなど、「生きる力」を育んでいきます。	教育推進部	教育保育課	A	市内16小学校で兵庫県内での長期宿泊体験を通して、兵庫県の自然、生物に触れ、理解を深めた。	小学校5年生の児童が環境問題により興味関心を持つようになった。また、県内にどのような環境があるかを学ぶことができ、川西市の良さや特徴を学ぶことができた。 施設によって、活動時期の選択肢が限られ、看護師などの外部人材の確保、教職員の負担が大きいことが課題である。また、4泊5日の中で体調不良者や熱中症が起こり、体調面における安全性の確保が困難である。	引き続き、充実した自然学校を実施したい。そのために、今年度から始まった自然学校人材バンクの活用や、市のHPを通じた看護師などの外部人材の募集に力を入れていく。 また、3年生の環境体験、4年生の里山体験、5年生の自然学校と系統性をもったカリキュラム（内容やプログラム）の設定を各校へ促していく。		
5	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	④	中学校教育支援	中学校2年生を対象に地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」を実施し、地域や自然の中で、生徒の主体性を尊重した様々な活動や体験を通して、地域に学び、自分を見つめ、他人を思いやる心を育てるとともに、自立性を高め「生きる力」を育んでいきます。	教育推進部	教育保育課	A	市内7中学校の2年生と川西養護学校の中学部2年生について県立一庫公園などで実施した。 地域や自然の中で、地域の方々や従業員の方々と環境保全体験や職場体験を行った。	地域や自然の中で、地域の方々や従業員の方々と環境保全体験や職場体験を行い、地域に学び、自分を見つめ、他人を思いやる心を育てることができ、「生きる力」を育むことができた。	地域参画の視点を継続する中で、SDGsの視点を引き続き取り入れていく。 地域の事業所やボランティアの方々と継続して「トライやる・ウィーク」に今後も取り組んでいけるように関係を構築していく。		
6	◆教職員や市民を対象とした研修の実施	①	教育研究	教職員対象に「環境体験研修」を実施し、日本一の里山である黒川地域・猪名川水系・身近な自然などを体験し、自然・生物・環境教育など体験的な研修を行っていきます。	教育推進部	教育保育課	A	教職員対象に「環境体験研修」と「里山フィールド研修」を実施し、日本一の里山である黒川地域・猪名川水系・身近な自然などを教職員が体験した。	日本一の里山である黒川地域・猪名川水系・身近な自然などの恵みを教職員が再認識した。 各学校の実情に合わせて教職員が児童へ授業するには専門的な知識の定着が課題であり、自然活動団体とのさらなる連携など検討する必要がある。	継続的に「環境体験研修」と「里山フィールド研修」を実施し、専門的な知識の定着を教職員に図るとともに、川西市を教材とした環境学習プログラムの定着も同様に図る。		（委員） 環境学習を行う場合には、指導してくれるボランティア団体との協議を行っておく必要がある。地域によって見られる生物が違うので、研修等を実施する前に簡単な打ち合わせを行ってもらいたい。現場を知ってもらうことが必要。

【資料2】

生物多様性ふるさと川西戦略　進捗状況調査（令和7年度）

自己評価の評価方法
A　目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
B　目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
C　実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
D　実施していない。実施内容等を再検討する必要がある。

No.	基本戦略	施策No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	令和7年度自己評価	令和７年度の実施状況（2025年度）	令和７年度成果と課題	今後の方向性	備考	参考（令和7年第2回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会（R8.1.13）での委員からの意見等）
7	◆教職員や市民を対象とした研修の実施	②	環境学習の充実	公民館などの学習の充実を図り、様々な世代への環境教育も充実させていきます。	生涯学習部	川西公民館	A	清和台公民館（「カーボンニュートラルの全体像と具体例」と「カーボンニュートラルに貢献する超電導技術」講座）、川西公民館（子ども生きもの観察隊～小川で水生生物観察～）、けやき坂公民館（「里の川"芋生川"水辺の観察会」、東谷公民館（冬の野鳥観察会）を実施し、4館合計で76人が環境に関する公民館講座を受講した	各館で地域の特性に沿った環境学習を実施した。地域ニーズや公民館の立地の特性等により講座を開催していることから、全館で実施とはなっていない。	関係所管課と協力して環境学習の充実に努める。		
				2. 自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発								
8	◆広報や市HPによる情報発信	①	自然環境情報の発信	市HPや広報かわにしなどの媒体を通じ、かわにしの自然環境、生物多様性に関する情報を定期的に発信することにより、ふるさと川西のすばらしさを伝えていきます。	市民環境部	環境政策課	A	以前から市HPに自然活動団体や企業を紹介するページを設けている。令和7年度にはシロバナウンゼンツツジの公開や菊炭友の会など自然活動団体の活動を広報誌に掲載した。	市広報誌を中心に自然活動団体の活動を紹介することが出来た。また、環境フェスタを通じて団体、事業者の活動を市民に紹介することが出来た。その他、自然活動団体の活動をPRする場としてのパンフレットラックを市役所と中央図書館に設置し、令和7年度から運用を開始。 今後は市民が閲覧しやすいように市HPを改訂していく。また、市HPの各団体の紹介ページを更新していくとともに活動内容を発信していく必要がある。	市民が閲覧しやすいように市HPを改訂していくとともに活動団体や企業を紹介するページの内容等を更新し、引き続き情報発信に努める。		
9	◆広報や市HPによる情報発信	②	国や兵庫県が作成する上位計画などの広報、普及啓発	生物多様性に関する国や兵庫県の情報について、市HP上で概要版の掲載やリンクを貼り、一元で閲覧でき、情報が入手しやすくなるよう整備します。	市民環境部	環境政策課	A	国・兵庫県からの情報を速やかに市内部で情報共有するとともにHP、メールなどを活用し、市民、自然活動団体等に情報を発信した。	国・兵庫県からの情報を市内部で情報共有するとともに、市民や自然活動団体等へ速やかに発信することができた。	引き続き、国や兵庫県の動きを確認し、迅速な情報発信に努める。		
10	◆広報や市HPによる情報発信	③	観光の推進	市HPや観光マップなどを通して、市の自然や歴史、市内の観光地のPRを行っていきます。	生涯学習部	観光・文化財課	A	昨年に引き続き、市観光協会と協力し、市の自然や歴史、観光地を紹介するHPを更新した。	HPを更新し、最新の市の自然・観光の情報を発信した。	市内に整備している看板の情報更新やHPの見直しを行いながら、市内の自然や歴史、観光地のPRを進めていく。		
11	◆広報や市HPによる情報発信	④	地産地消の推進	本市の特産品であるイチジク、クリ、モモなどについて、市広報誌や市HP等を用いてPRし、地産地消を進めます。	市民環境部	産業振興課	A	モモ及びイチジクの即売会を実施。クリは直売所にて特設ブースを設けて販売され、市HPでPRを行った。本市で桝井ドーフィン種の栽培が始まって100周年を迎え、兵庫県いちじく研究大会を開催した。 また、市内で採れた作物を「川西そだち」とし、PRのぼりを作成・配布し、市HPでもPRを行った。市内産農産物を販売する小売店にも積極的にのぼりを配布した。 さらに、イチジクは、航空会社とタルト専門店の協力で東京へ空輸し、イチジクタルトを販売し、市HP等でPRを行った。	モモ及びイチジクの即売会を実施した。 市HP以外にも、PRのぼり「川西そだち」の設置、航空会社やタルト専門店のSNSなど多数の紹介がなされたことで市内外に特産品をPRできた。	引き続き特産品の即売会を実施する。 市HPのほか、直売所マップに情報を追加する等、積極的にPRする。		
12	◆広報や市HPによる情報発信	⑤	市街地における里山のPR	JR川西池田駅前ロータリーのクヌギを台場クヌギに仕立てるなど、市街地において、北部の里山の自然を身近に感じられるようにします。	土木部	公園緑地課	A	JR川西池田駅前ロータリーのクヌギについて台場クヌギへの仕立てを行い、市街地において里山の自然を身近に感じられるよう務めた。	台場仕立てを実施したことにより、駅前やキセラ川西を行き交う人々に里山の自然を感じられる場を創出している。	より多くの市民に里山を感じてもらえるよう、維持管理を実施する。		

生物多様性ふるさと川西戦略　進捗状況調査（令和7年度）

自己評価の評価方法
A　目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
B　目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
C　実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
D　実施していない。実施内容等を再検討する必要がある。

No.	基本戦略	施策No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	令和7年度自己評価	令和７年度の実施状況（2025年度）	令和７年度成果と課題	今後の方向性	備考	参考（令和7年第2回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会（R8.1.13）での委員からの意見等）
13	◆本市によるモデル整備や景観計画による情報発信	①	再生可能エネルギーの普及啓発	市役所本庁舎南側壁面やキセラ川西プラザ、市消防本部に太陽光発電システムを設置し、モニターで観察できるようにするなど、地球温暖化対策（地球温暖化による生きものの衰退・絶滅の防止）として再生可能エネルギーの普及促進のための啓発を進めていきます。	市民環境部	環境政策課	A	キセラ川西プラザと消防本部についてはモニターで発電状況を表示している。一方、市役所モニターについては部品の不具合により活用できていない。	キセラ川西プラザと消防本部についてはモニターで発電状況を見ることができる状態であり、来場者に再生可能エネルギーの普及促進のための啓発を行うことが出来た。一方、市役所モニターについては部品の不具合により活用できていない。	キセラ川西プラザと消防本部については引き続きモニターで再生可能エネルギーの啓発を行う。市役所についても啓発の再開に向けモニター部品の交換等を検討する。		
14	◆本市によるモデル整備や景観計画による情報発信	②	景観形成の情報発信	川西市景観計画により、市の自然や歴史文化をはじめとする様々な景観資源を活用し、魅力的な景観を周知するとともに、景観形成に向けた取組みの啓発を進めていきます。	都市政策部	都市政策課	A	HPへの活動紹介（黒川里山センター、川西里山クラブ、川西市婦人会、大和フォレストクラブ、菊炭友の会）・SNSでの川西市の見所（景観樹木の見頃）の紹介等、市民や事業者の活動をインターネットを使って発信することにより、参画と協働を推進する仕組みづくりを行った。	市民や事業者の活動をインターネットに掲載することより、事業者や市民にも情報発信できた。	今後もSNSや動画を活用することで積極的な情報発信を行い、川西らしい魅力的な景観の形成を進めていく		
				3．生物多様性保全の取組みの強化								
15	◆市民生活での生物多様性保全の活動の支援	①	外来種対策の推進	外来種の侵入経路、影響、対策の必要性や市民でも実施できる外来種対策の方法などをまとめ、市HPなどで広報するなど、外来種に対する対策を進めます。	市民環境部	環境政策課	A	以前からヒアリやセアカゴケグモ、アカミガメ、アメリカザリガニ、ナガエツルノゲイトウなどについての対策、駆除方法などを市HPに掲載しているが、R7年度はR7年7月に市内で初めて確認されたクビアカツヤカミキリの発見情報について速やかに市内部で情報共有するとともにHP、メールなどを活用し、市民、自然活動団体等に情報を発信した。	以前からヒアリやセアカゴケグモ、アカミガメ、アメリカザリガニ、ナガエツルノゲイトウなどについての対策、駆除方法などを市HPに掲載しているが、R7年度はR7年7月に市内で初めて確認されたクビアカツヤカミキリの発見情報について速やかに市内部で情報共有するとともにHP、メールなどを活用し、市民、自然活動団体等に情報を発信した。	引き続き、クビアカツヤカミキリやその他特定外来生物に関する情報の迅速な発信に努める。		
16	◆本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	②	文化財保存啓発	天然記念物などの貴重な財産である文化財の保全を進めるとともに、その普及啓発、活用を進めていきます。	生涯学習部	観光・文化財課	A	市内でクビアカツヤカミキリが発見されたため指定登録文化財（天然記念物）の所有者、管理者に対して注意喚起を行った.	指定・登録文化財（天然記念物）の所有者・管理者に対してクビアカツヤカミキリの危険性を周知できた。	指定・登録文化財（天然記念物）に被害が生じないように注視していく。 指定・登録文化財（天然記念物）の普及啓発、活用を推進する。		
17	◆本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	②	ため池などの保全	農業用灌漑のため、水利組合が管理するため池や農業用水路などの補修・改修、水難防止のため、安全柵の設置などへの支援を行っています。今後の改修などに際しては、ため池などにおける生物多様性の重要性に配慮し、進めていけるよう検討していきます。	市民環境部	産業振興課	A	地元水利組合等が実施する農業用施設の補修や改修の工事について支援を行うとともに、工事に際しては生物多様性の重要性に配慮して進めるよう依頼した。	地元水利組合等が農業用施設の補修や改修の工事を実施することで、農業用施設の適切な管理やため池などの保全を行うことができた。	今後も地元水利組合等が実施するため池や農業用水路などの補修や改修の支援を行うとともに、工事に際しては生物多様性の重要性に配慮するよう依頼する。		
18	◆本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	③	生物多様性に配慮した公園・緑地管理の推進	公園整備の際は、在来種の植樹に努め、特定外来生物の防除に向けた管理を実施していきます。 緑地は、生物多様性の観点から、保全する維持管理団体が継続して活動を行えるよう、公園、緑地など、みどりの維持管理活動を行う団体間の連携により、活動を高め合う仕組みづくりを行います。	土木部	公園緑地課	A	開発による提供公園について、事業者との協議を行い、在来種の植樹に努めた。また、市内緑地において、市民活動団体主体の維持管理、緑地の清掃活動により集められたごみの回収を行うなど活動を支援し、まち山の保全に努めた。3団体が継続して維持管理を行うことができた。	公園整備の際は、在来種の植樹に努めることができた。管理する桜において、特定外来生物であるクビアカツヤカミキリの被害が確認されたため、被害木の伐採を行ったものの今後の被害拡大を懸念している。	公園整備の際は、在来種の植樹に努める。また、クビアカツヤカミキリの被害拡大を防止するため、公園や街路樹におけるサクラやモモについて被害調査を順次実施し、早期発見と防除に努める。		

生物多様性ふるさと川西戦略　進捗状況調査（令和7年度）

自己評価の評価方法
A　目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
B　目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
C　実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
D　実施していない。実施内容等を再検討する必要がある。

No.	基本戦略	施策No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	令和7年度自己評価	令和７年度の実施状況（2025年度）	令和７年度成果と課題	今後の方向性	備考	参考（令和7年第2回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会（R8.1.13）での委員からの意見等）
19	◆本市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施	①	ナラ枯れ対策	カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害が西日本を中心に発生しているため、被害拡大防止に取り組んでいきます。	市民環境部	産業振興課	A	被害最先端地の指定外のため、ナラ枯れの被害拡大防止事業は行わなかった。	ナラ枯れ被害の確認数が減少し、被害最先端地から外れている。	県と連携し、ナラ枯れの発生状況等、動向を注視する。		
20	◆本市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施	②	有害鳥獣対策	川西市鳥獣被害防止計画に基づき、農作物の被害などの防止を目的に、個体数の調整などとしてイノシシやシカの捕獲・処分を行っていきます。また、鳥獣による食害防止対策としての防護柵設置等に対する補助を行っていきます。	市民環境部	産業振興課	A	県猟友会川西支部協力のもと、川西市鳥獣被害防止計画に基づき、農作物被害の防止等を目的にイノシシやシカの捕獲及び処分を実施した。	県猟友会川西支部協力のもと、一定数の捕獲・処分の成果が上がっているが、農作物被害は無くなっていない。	引き続き県猟友会川西支部と連携し、イノシシやシカの捕獲・処分を行い、個体数管理を図っていく。		
21	◆本市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施	③	外来生物対策	農作物の被害などの防止、希少種を含めた在来生態系の保全・回復のため、特定外来生物であるアライグマ・ヌートリアを対象に捕獲・処分を行っていきます。また、農作物被害防止対策に対する補助を行っていきます。さらに、セアカゴケグモ、ヒアリ、アルゼンチンアリや、今後サクラやモモへの被害の拡大が懸念されるクビアカツヤカミキリについて、注意喚起や駆除に関する啓発を行っていきます。	市民環境部	産業振興課 環境政策課	A	【産業振興課】 県猟友会川西支部協力のもと、川西市鳥獣被害防止計画に基づき、農作物被害の防止等を目的にアライグマやヌートリアの捕獲及び処分を行った。 【環境政策課】 セアカゴケグモ、ヒアリ、アカミミガメ、アメリカザリガニ、ナガエツルノゲイトウなどに加えてクビアカツヤカミキリについて、国・兵庫県からの情報を速やかに市内部で情報共有するとともにHP、メールなどを活用し、市民、自然活動団体等に注意喚起や駆除に関する情報を発信した。	【産業振興課】 特にアライグマの捕獲依頼申請数及び捕獲数が多く、農作物被害等が多数発生している。 【環境政策課】 国・兵庫県からの情報を市内部で情報共有するとともに、市民や自然活動団体等へ速やかに発信することができた。	【産業振興課】 引き続き県猟友会川西支部と連携し、アライグマやヌートリアの捕獲・処分を行い、農作物被害等の防止に努めていく。 【環境政策課】 引き続き、国や兵庫県の動きを確認し、迅速な情報発信に努める。		
	4. 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大											
22	◆市民、団体、企業などとの連携の構築	①	生物多様性に関する情報交換の場の提供	生物多様性に関する取組みを行っている市民、市民活動団体、事業者などが交流、情報交換などができる機会や場所を設けます。 「黒川を中心としたまちづくり方針」に基づき、旧黒川小学校グラウンド内に川西市黒川里山センターを整備します。里山保全や教育の振興、観光の推進を図るとともに、地域住民に限らず市内外から様々な方が集まる交流拠点として、生物多様性に関する情報を発信していきます。	生涯学習部	観光・文化財課	A	黒川里山センターは令和5年度より指定管理者による管理運営を行っており、旧黒川小学校の南北棟で里山学習の受け入れや生物多様性に関するフィールドワークを周辺施設や関係団体と協力して行った。	川西市黒川里山センターの管理運営を指定管理者が行い、旧黒川小学校南北棟を拠点として生物多様性に関する事業を行うことができた。引続き情報発信していくとともに、地域外の担い手である関係人口の拡大による地域課題の解決及び活性化につなげる必要がある。	今後もセンターを中心として情報発信を行っていく。		
23	◆市民、団体、企業などとの連携の構築	②	森林ボランティアの支援	森林の保全に取り組む森林ボランティア団体の活動支援を行い、日本一の里山と言われる黒川地区の里山を含めた森林の整備に努めていきます。	市民環境部	産業振興課	A	新たな支援制度により黒川地区の里山を含めた森林の整備を行う市内の活動団体に補助金を交付することで、活動支援を実施した。	支援対象や支援額の拡充により、4団体に対し計170万円の支援を実施した。 支援対象を拡充したが、申請団体数は増加していない。	森林保全に取り組む団体等へ支援することにより、森林の整備や保全に努めていくとともに、支援制度の活用が進むよう周知を図る。		
24	◆市民、団体、企業などとの連携の構築	③	自然や景観への保全活動をサポート	市街地に点在する自然環境や景観については、市民団体や事業者などが実施する保全活動へのサポート方法を検討します。	都市政策部	都市政策課	A	HPへの活動紹介やまちづくり支援事業の募集案内の掲示等の住民・事業者等による景観形成の取組みや支援により、保全活動へのサポートへ繋げるよう情報発信を行った。	市民団体の活動をインターネットを使って掲載することにより、知ってもらい興味を持ってもらうことで保全活動へのサポートへ繋げるような情報発信ができた。 現在掲載できている件数が少なく、まだ市内には知られていない団体、活動があるため、順次発信していく。	住民・事業者等による景観形成の取組みをホームページで紹介する等、今後もインターネットを活用し積極的な情報発信を行う。		

生物多様性ふるさと川西戦略　進捗状況調査（令和7年度）

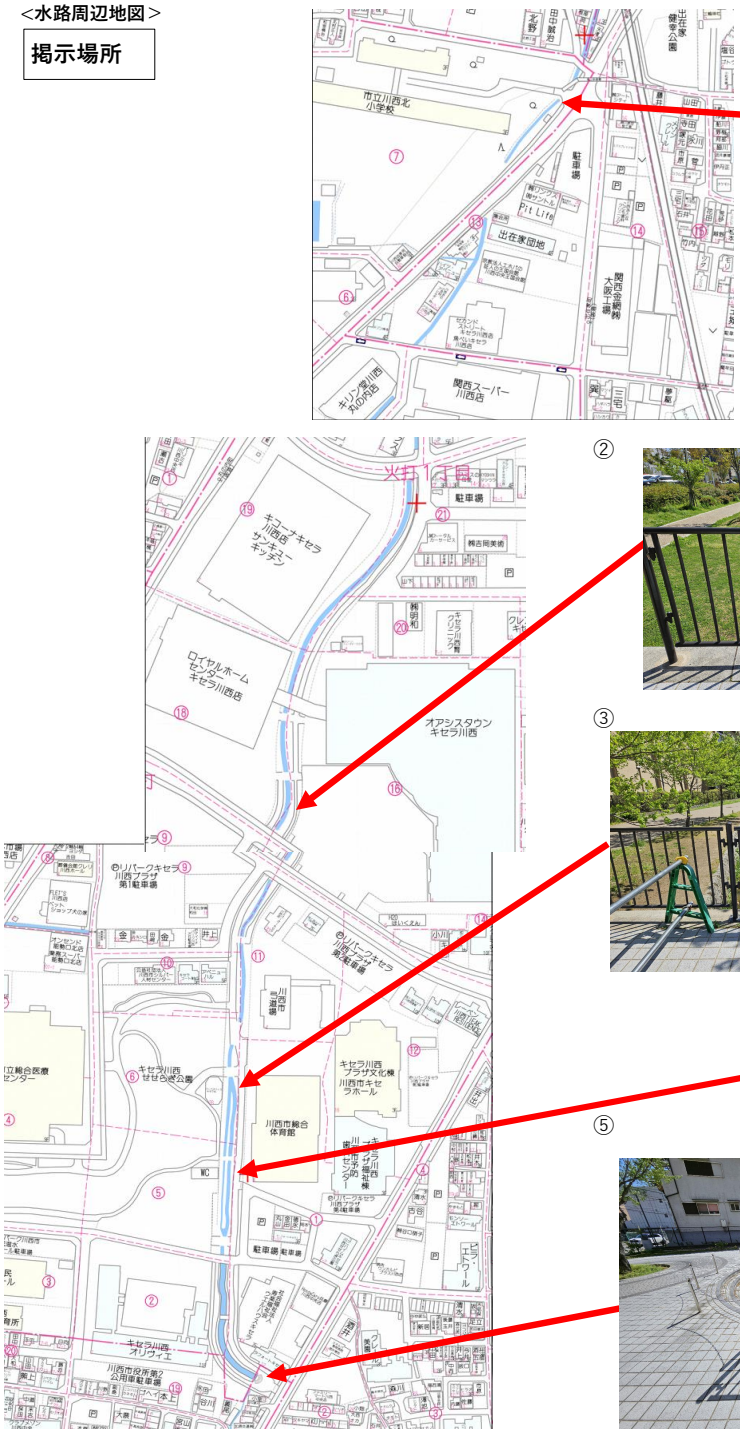
自己評価の評価方法
A　目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。
B　目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。
C　実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。
D　実施していない。実施内容等を再検討する必要がある。

No.	基本戦略	施策No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	令和7年度自己評価	令和７年度の実施状況（2025年度）	令和７年度成果と課題	今後の方向性	備考	参考（令和7年第2回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会（R8.1.13）での委員からの意見等）
25	◆市民、団体、企業などとの連携の構築	④	事業者との連携及び生物多様性戦略作成の応援	兵庫県立一庫公園、独立行政法人水資源機構一庫ダム管理所、国崎クリーンセンターなど生物多様性の拠点となる地点を管理する事業者などと連携し、生物多様性の保全活動を推進します。	市民環境部	環境政策課	A	環境月間の展示を6月に実施した。また、環境フェスタを7月に開催した。その中で国崎クリーンセンター啓発施設ゆめほたるの活動内容を紹介するなど、団体、事業者と連携・協力を維持することができた。	環境フェスタを通じて団体、事業者の活動を市民に紹介することが出来た。	今後も環境フェスタなどを通じて団体、事業者と連携・協力を維持していきたいと考えている。		
26	◆兵庫県や市民団体との既存事業の継続	①	北摂里山博物館構想	都会近くに残された北摂の里山地域一帯を「北摂里山博物館（地域まるごとミュージアム）」として整備し、生産活動はもとより環境学習、野外活動など、訪れる人々それぞれのニーズにあわせて利活用していくことを通じ、北摂里山の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげていく取組みを兵庫県と連携して実施していきます。	生涯学習部	観光・文化財課	A	里山保全や教育の振興、観光の推進を図るとともに、地域住民に限らず市内外から様々な方が集まる交流拠点として黒川里山センターの活動を継続した。	川西市黒川里山センター新棟南北棟の管理運営を指定管理者が行い、こどもを中心とした里山体験学習等の事業を行った。昨年に引続き関係人口の拡大を図り地域課題の解決及び活性化につなげる必要がある。	センターを中心とした北摂里山を持続的に保全しつつ、地域の活性化につながる取組を展開していくために足を運んでもらうための方法を協議していきたい。		
27	◆兵庫県や市民団体との既存事業の継続	②	NPOなどと連携した河川美化の実施	猪名川水系の美化環境を保全し、豊かな生物多様性を守るために、NPOなどが実施する河川美化活動を支援し、発生した廃棄物の収集、処理などを行っていきます。	美化衛生部	美化推進課	A	NPOなどが実施する河川美化活動の支援として、ごみの収集を10回実施した。	NPOなどと連携し、ごみの収集を行った。	引き続き、NPOなどが実施する美化活動を支援していく。		

出在家町（川西北小学校横）キセラ川西市街地水路水生生物群保存のための啓発について　　【資料３】

<水路周辺地図>

掲示場所



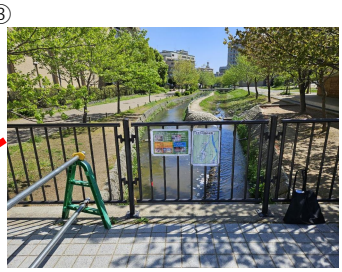
①



②



③



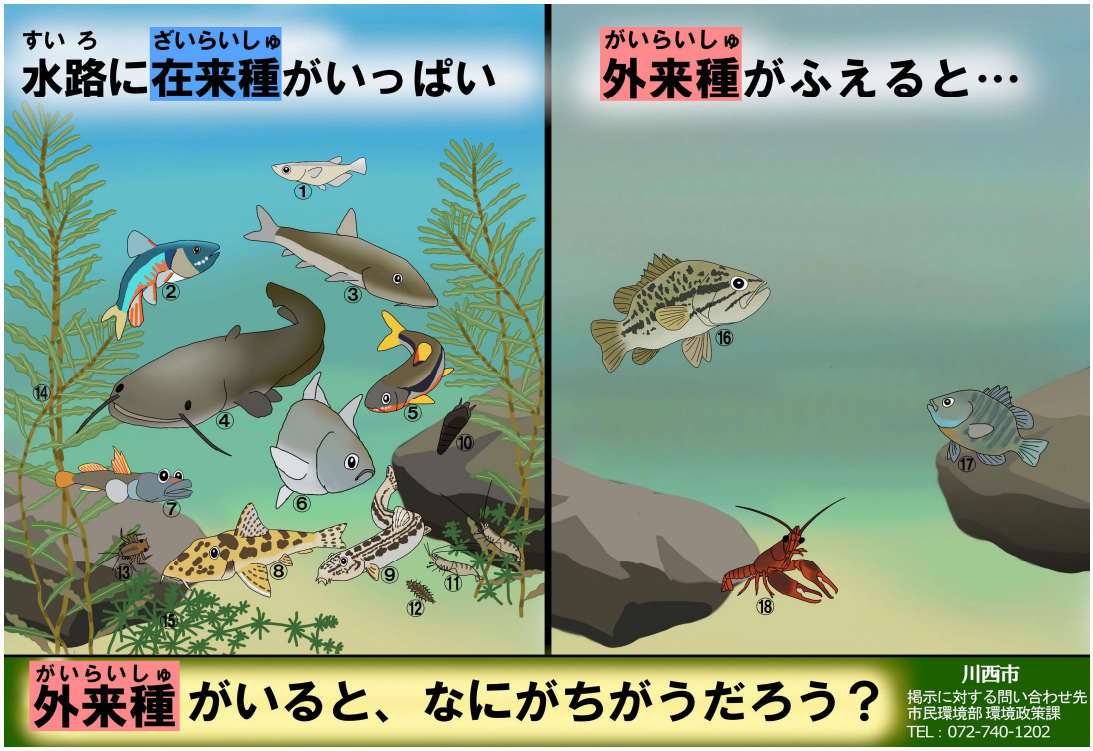
④

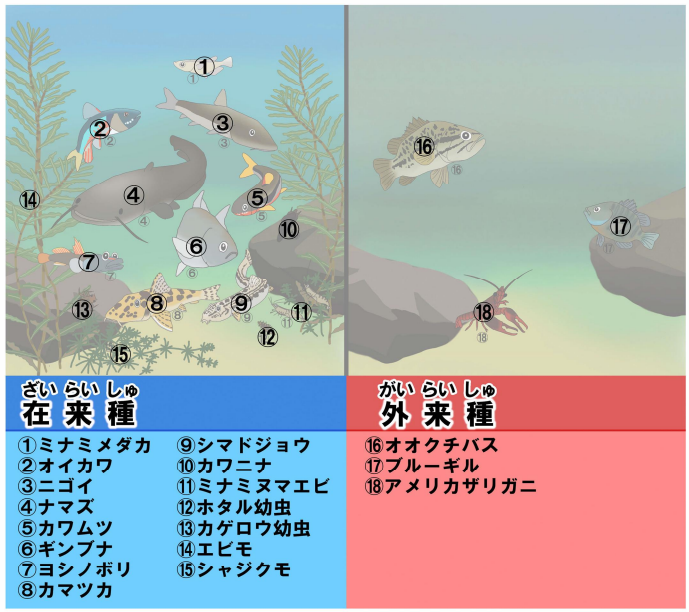


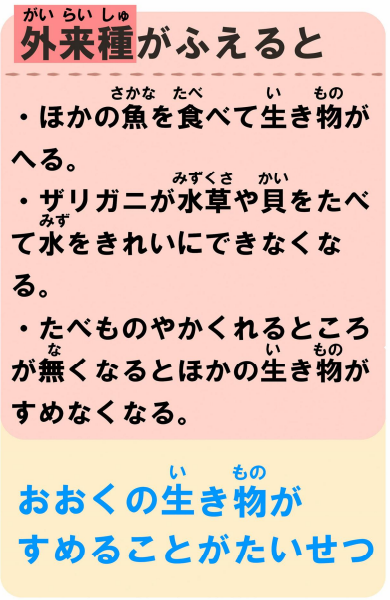
⑤



掲示場所①（川西北小学校前）









掲示場所②～⑤（キセラ川西地区内）





【資料4】

川西市における特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の確認状況について

